

2025 年 10 月例会報告 【小貝川遡上と防災センター】

開催日： 2025 年 10 月 23 日(木)

集合場所： 常磐線 藤代駅北口

集合時間： 9 時 10 分

コース： 藤代駅北口(スタート)⇒県南防災センター ⇒藤代スポーツセンター⇒岡堰

⇒さくら荘(昼食)⇒農業ふれあい公園 分岐(19&23km)

⇒19km コース 南守谷駅(ゴール)

⇒23km コース 天満宮(四祠)⇒小目沼橋(沈下橋)⇒小絹駅(ゴール)

距離： 19Km コース(実質 17.5km)

23km コース(実質 22km)

参加者： 27 名(会員 25 名/一般 2 名)

天候： 曇り後晴れ

概要：

今回も、前回に引き続き、茨城県全域及び千葉県から 27 名と多くのご参加頂きありがとうございました。

天候も、前回にもまして最高のウォーキング日和だったかと思います。

今回のコースは、堤防がメインで信号もほとんどなく、スピードを出し、おしゃべりを楽しみながら歩けるコースと思い、ウォーキング速度は、5km/時間で設定しました(休憩時間は除く)

当初は、『小貝川遡上とフラワーカナル』のタイトルでしたが、下見の時は雑草状態でしたので、急遽『小貝川遡上と防災センター』に変更しました。(ボランティアの方々の高齢化?)

最初の立寄り場所は、小貝川・藤代地区河川防災ステーションで、短時間ではありましたが、事務局長の秋山様より説明をいただきました。

皆さん、興味津々に、真剣に聞き入って頂いた様なので、うれしくなりました。

今回のコースは、19km と 23km の 2 コースからの選択制としました。

自分に合ったコースを選択していただき、6 名の方が 19km コースを、他の方は 23km コースを完歩されました。

小貝川堤防からの筑波山の見え方の変化を楽しんで頂けたかと思います。

23km コースは、小貝川に 3 か所ある沈下橋の一つであります『小目沼橋』を渡りました。

ウォーキング状況：

藤代駅北口に集合し、小貝川目指して。

八坂神社を左手に、小貝川の堤防への階段を上ると、小貝川スタート点（0km）近くへ。

さあ、上流目指して小貝川遡へ出発。

国道 6 号線と藤代の街を背景に（下見時撮影）



橋の下には、東京芸大生の壁画も。

最初の立寄り場所『小貝川・藤代地区河川防災ステーション』見学。 皆さん、真剣ですね。



防災ステーションを後に、去年の種子からのコスモスを眼下に。



少し先に、下見の時には放牧されていたお馬さん達。

キバナコスモスも咲いていました。



つくばみらい市を流れる「中通し川」との合流地点の伊丹水門。

もう少しで、お昼だー。頑張るぞ～!!



岡堰の、秋桜も咲いていました。

思い思いの場所で昼ご飯。





岡堰と筑波山をバックに集合写真（岡堰は中央部/筑波山は向かって左側）

お昼も食べたし、集合写真も撮ったし、19km と 23 kmの分岐点へ。



私達の為に？ 今日草刈りが行われていました。

話をしながら、楽しく、気持ちよく歩けました。

ありがとうございました。

分岐点の『取手市農業ふれあい公園』に到着



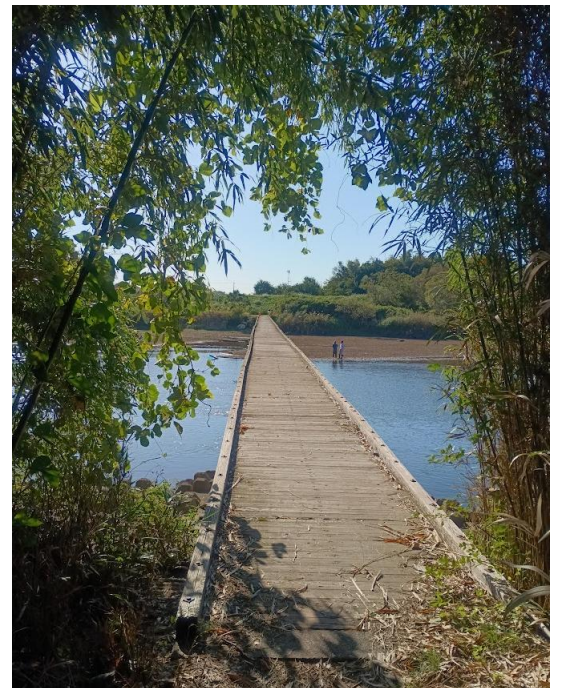
トイレ休憩と 19km の方々の IVV を配り、それぞれ次の目標地点へ。

19km グループは、紅葉の始まったイチョウ並木を通り、南守谷駅へ。

23km グループは、小目沼橋『沈下橋』を渡り、小絹駅へ。



小目沼橋の『遠景』



『入口』

23km グループの集合写真



「落ちないでよ～」

皆様のご協力のおかげで、19km のゴール時間は ???

23km コースのゴール時間は、目標時間より約 10 分遅れでゴール出来ました。

休憩・トイレタイムの設定が甘かった様です。

皆さんの、健脚はすごいですね。

私も、もっと鍛えなければ、皆さんのリーダーは危ないですね！！

楽しみながら、頑張ります。

ありがとうございました

今後も、楽しいウォーキングにしていきたいと思います

よろしくお願いします

《ご参加出来なかった方へ》

小貝川・藤代地区河川防災ステーション

茨城県取手市桐木地先（小貝川右岸3.4km）に関東地方で初めて、国土交通省と県南総合防災センター運営協議会との共同事業で整備されました。面積は10,770㎡で、防災センター、水防ヤード、ヘリポート、資材置場等の施設があります。



県南総合防災センター

茨城県南の8市町（常総市・取手市・守谷市・つくばみらい市・龍ケ崎市・牛久市・つくば市・利根町）が内閣府や茨城県の全面的協力により、国土交通省下館河川事務所の管理する河川防災ステーション内に平成13年4月1日、オープンしました。広域では県内初の地域防災拠点施設整備のモデル事業として建設され、災害に備えるため、食料や防災用機材の貯蓄をしており、災害時には救援物資の供給活動拠点や広域避難所として機能を発揮します。平常時は、防災訓練や講演会、地域住民の防災意識を高めるための体験学習、レクリエーションの場等にも利用されています。一階は生活物資備蓄庫や防災活動準備室、二階は総合管理室、防災教育室、防災組織待機・連絡室、管理事務所等があります。



歴史が語り出した独創的なデザインは、世界的に注目されている建築家・隈研吾氏の設計図によるものです。



以上

記： 平山